



発達障害の基礎知識 小学生編

横浜市総合リハビリテーションセンター
発達精神科医師 大園啓子



本日の内容

1. はじめに
 2. 自閉スペクトラム症 (ASD) について
 3. 注意欠如多動症 (AD/HD) について
 4. 学習症 (LD) について
 5. さいごに
- 
- 
- 



はじめに ～小学生のよくある相談

友達関係のこと：友達ができない、けんかが多い

授業態度のこと：立ち歩き、手遊び、おしゃべり

学習のこと：学習のつまづき、読み書きの苦手さ



これまで問題なかったのに…

教室での指導の困難をともしなう子どもの割合（1）

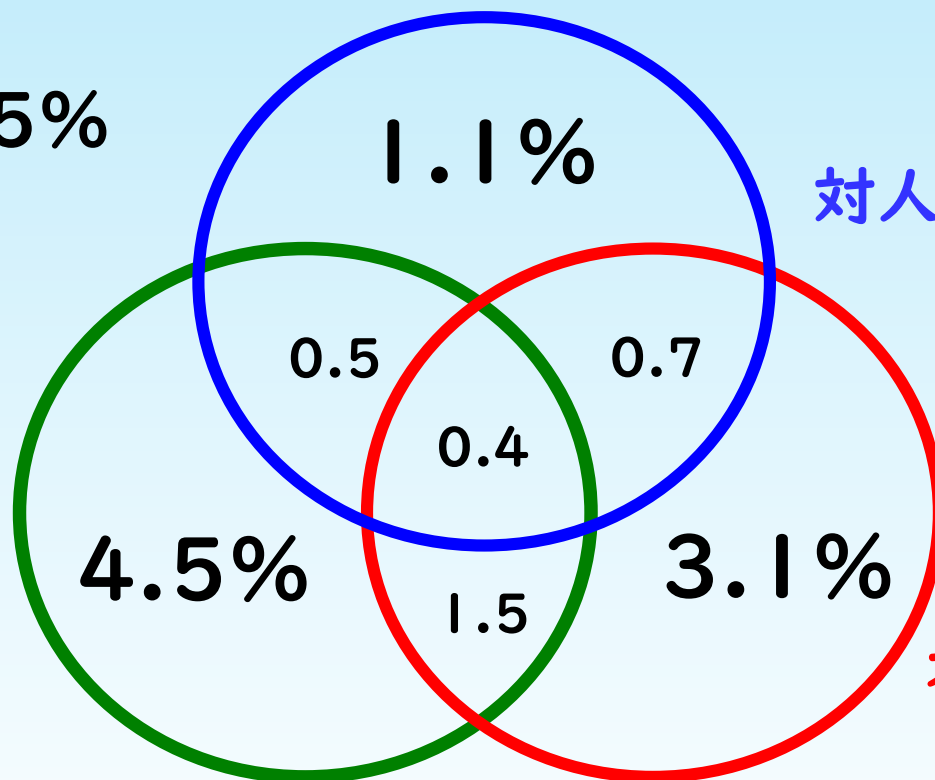
文部科学省「通常の学級に在籍する特別な配慮や支援が必要な児童生徒に関する全国調査」（2012年）

全体の割合：6.5%

対人関係やこだわりの問題

学習面で著しい困難

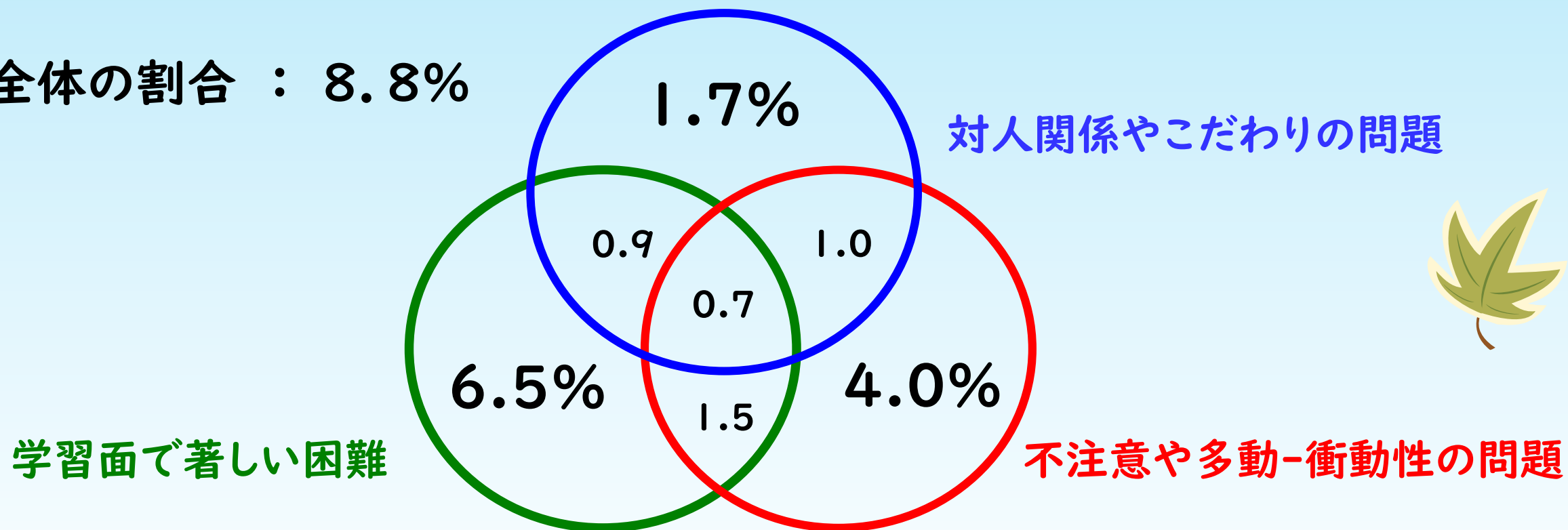
不注意や多動-衝動性の問題



教室での指導の困難をともしなう子どもの割合（Ⅰ）

文部科学省「通常の学級に在籍する特別な配慮や支援が必要な児童生徒に関する全国調査」（2012年）

全体の割合：8.8%





はじめに ～問題の背景

小学生になって生じてくる問題に

その子が生まれつき持っている

「発達障害特性」が関係していることがあります



特性を理解し、問題の対応方法を考えることができます

発達とは・・・？

発達 (development) とは、

人の心身の機能が、**量的**及び**質的**に変化すること
順序、方向性がある程度定まっている

成長 (growth) とは、

身体の状態が、**量的**に増加すること
例) 身長、体重、胸囲など



発達障害とは・・・？

定型とは異なる発達を示し、この違いにより、
何らかの「社会的な困難」が生じている
(本人や周りが困っている)

「脳の機能」に原因があると考えられており、
育て方や環境が原因で生じるものではない。

発達の違いと偏り(凸凹)

定型との発達の違いは、大きく二つに分けられる

「発達の遅れ」：発達が同年代の子より全体的にゆっくり

「知的障害」

「発達の偏り(凸凹)」：できることできないことに大きな偏り

「(狭義の)発達障害」

主な発達障害

知的障害

ID

自閉スペクトラム症/
自閉症スペクトラム障害

ASD

注意欠如多動症

ADHD

限局性学習症

SLD



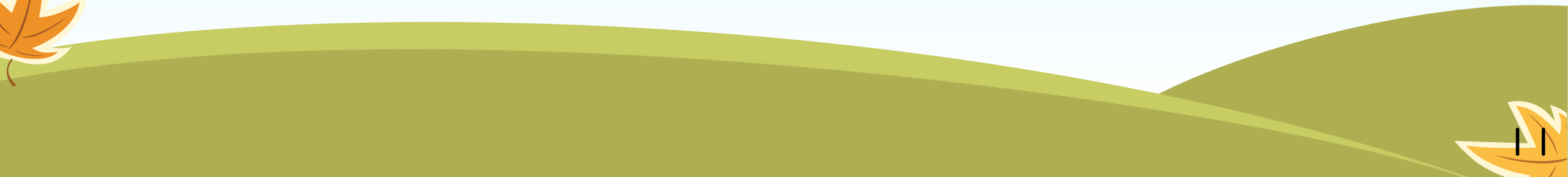
発達特性と発達障害

発達特性は生まれつき持っているもの

その特性による困難が生じる場合と生じない場合がある

持っている特性と環境とのバランスによって、

何らかの対応が必要な状態となると発達障害と診断される



小学生になると・・・

友達と関わる時間が増える（大人の介入が減る）

ルールに沿って活動するべきことが増える

教科学習が始まり、机上で作業する時間が増える

学年が上がるにつれ求められることは増えていく

⇒特性による困難が生じやすくなっていく



自閉スペクトラム症/
自閉症スペクトラム障害



Autism Spectrum Disorder
(ASD)

自閉スペクトラム症の特徴

◆人とのやり取りが苦手

（社会性、コミュニケーションの質的な困難さ）

◆こだわりを持つ、同じを好む

（限局しパターンの興味と行動）

◆感覚の偏り

（感覚過敏、感覚回避、感覚鈍麻、感覚探求）



人とのやり取りの苦手さ

◆言葉のコミュニケーションの苦手さ

一方的に自分の言いたいことを話す、自分から話しかけない
質問の意図が分からない、会話がかみ合わない
相手に伝わるように説明できない

◆言葉以外のコミュニケーションの苦手さ

視線や表情を上手に使えない、
人の気持ちに気づけない、気にしない
状況・空気を読めない

人とのやり取りの苦手さ

◆年齢相応の人間関係を築くことの苦手さ

仲間への興味・関心が薄く、一人遊びが多い

人との距離が近すぎる

その場に合わせた行動をとるのが難しい

友達と仲良く一緒に遊ぶことが難しい

(友達をつくる、友達関係を維持することがむずかしい)



こだわり、同じを好む

- ◆興味・関心の幅が狭い（が、しばしば深い）
 - ◆物事を柔軟に考えられない、修正がきかない
 - ◆特定の物・順番・手順・遊び方へのこだわり
 - ◆パターンを好む、イレギュラーが苦手
 - ◆経験したこと、教えられたことでないと分からない
- 
- 
- 

感覚の偏り

- ◆ **感覚過敏**: 特定の感覚刺激を過剰に受け取ってしまう
(音、光、におい、味、触り心地などに過敏)
- ◆ **感覚回避**: 苦手な感覚を避ける行動をとる
(特定の場所や行動を嫌がってやらない)
- ◆ **感覚鈍麻**: 刺激に対する反応が鈍い
(痛み、暑さ寒さ、音などに気づきにくい)
- ◆ **感覚探求**: 刺激への反応が鈍いので、強い刺激を求める
(ジャンプし続ける、回り続ける、服や文具を噛む)



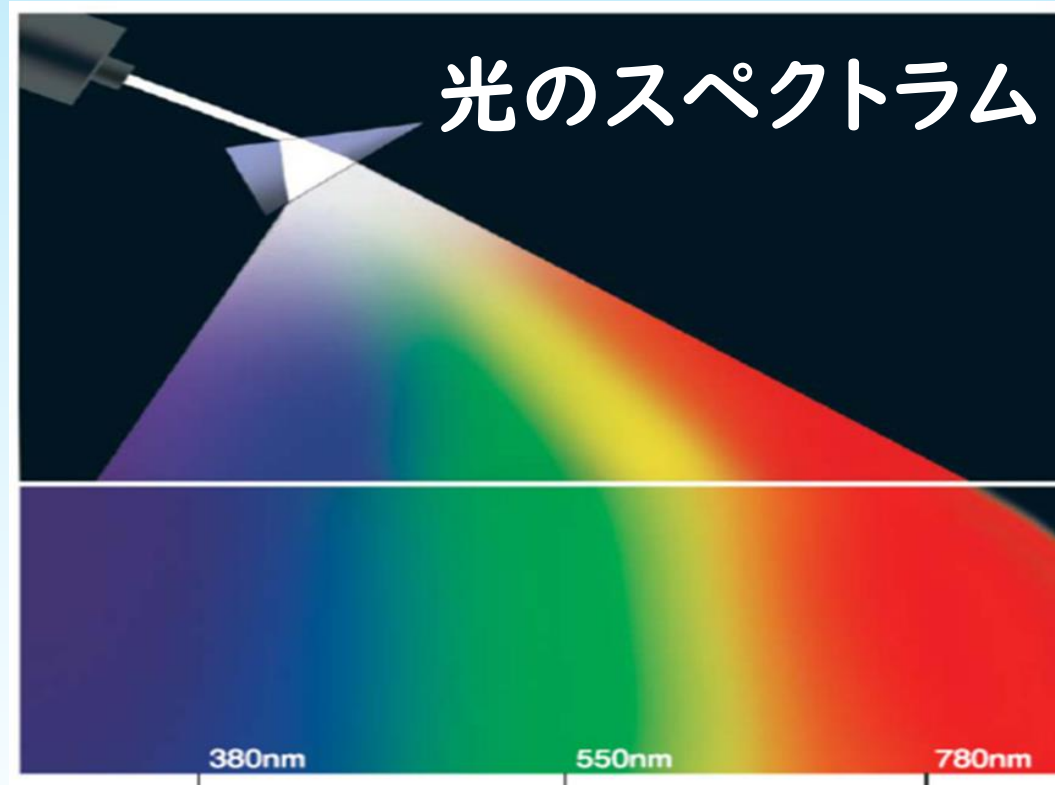
自閉スペクトラム症、その他の特徴

- ◆認知能力の偏り：視覚的、パターンの課題が得意
 - ◆記憶が良い：映像記憶、フラッシュバック
 - ◆運動の問題：運動が苦手、不器用
- 
- 

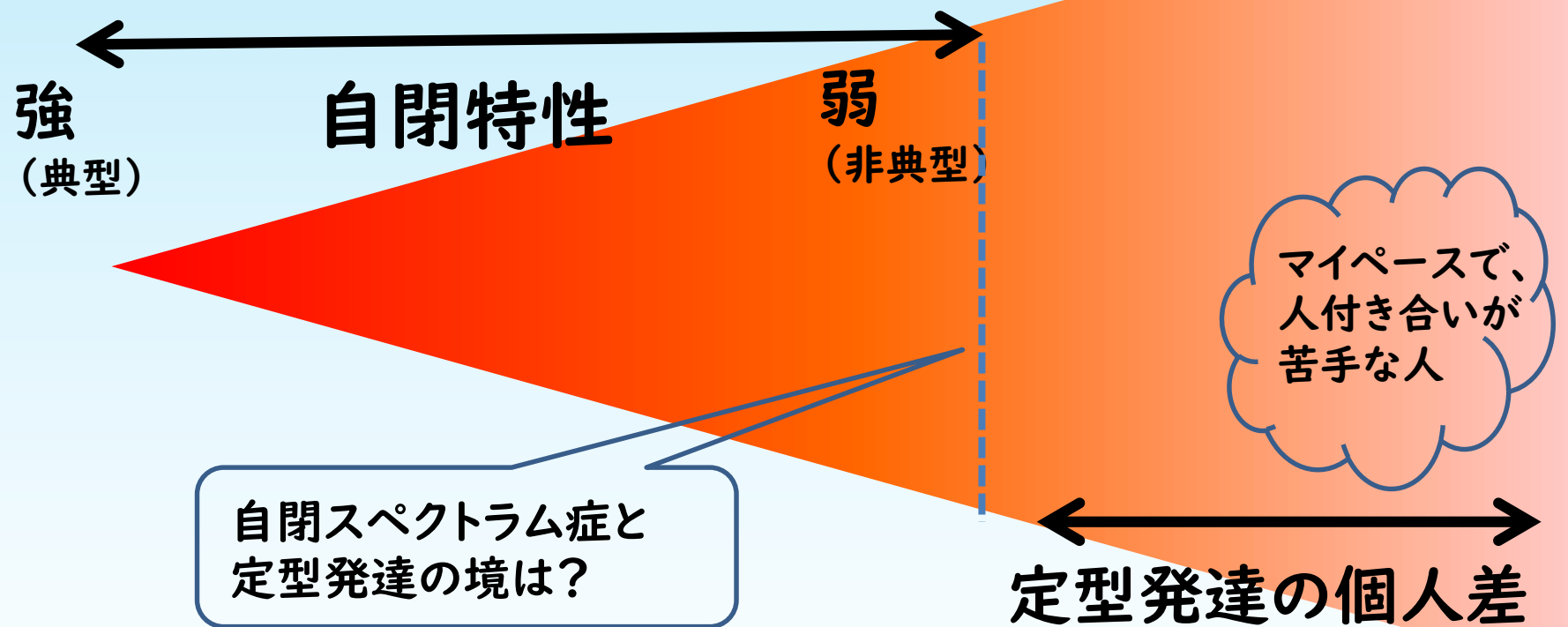
※これらの特徴は診断には直接関係しません

「スペクトラム」って何？

曖昧な境界を持ちながら
連続していること
(連続体)



自閉「スペクトラム」とは？





学校生活における困難さ

◆友達関係の困難さ

友達がいない・少ない、友達とのトラブル



◆集団活動における困難さ

一斉指示で動けない、場にあった行動がとれない



◆勉強の困難さ

興味のないことに取り組めない、応用がきかない

自閉スペクトラム症への「支援の仕方」

子どもの特徴（特性）を知る
行動の観察・解釈、発達検査



特性からの不都合が起きない工夫
特性を含めた「個性」を活かす

具体的な「支援の仕方」のヒント

- ◆ 分かることを手掛かりに利用する
視覚的・具体的・構造化
- ◆ 好きなことを見つけて活用する
自発的、意欲的に取り組める
- ◆ 成功体験を積める環境を設定する
できた! 分かった! から学ぶ

自閉スペクトラムの子どもの「育ち」

特性（違い）を持ちつつ、確実に発達する

成長による表現型の変化

介入（関りや環境）による変化

特性は強みにもなる

裏表がない・決められたことをしっかり守る・趣味を楽しむ



注意欠如・多動症/
注意欠如・多動性障害



Attention-Deficit/Hyperactivity
Disorder (AD/HD)

AD/HDとは…

Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder

注意欠如・多動症

年齢あるいは発達に不釣り合いな

不注意、多動・衝動性が特徴

12歳以前から症状が続いている

学校と家庭など、2か所以上で症状が存在



AD/HD 3つの特徴

- 
- 
- ◆ **不注意**：気が散りやすい、忘れ物なくし物が多い
 - ◆ **多動**：落ち着きがない、じっとしてられない
 - ◆ **衝動性**：がまんできない、思いついたら即行動する

AD/HD症状は授業中、特に目立つ

- ◆不注意：話を聞いていない、必要な教材がない
- ◆多動：体が常に動いている、手遊び
- ◆衝動性：立ち歩き、勝手に発言、周囲へちょっかい

AD/HDは、小学校低学年で診断されることが多い

ADHDで想定されている脳の特徴

脳内の神経伝達の異常による

実行機能の低下、報酬系機能の低下

実行機能

優先順位、計画性
作業記憶保持
感情調整、覚醒調整

報酬系機能

物事を成し遂げた時の
達成感、満足感

AD/HD症状の「二次的な問題」

AD/HD特性に適切な対処が行われないと、

- ・学習に遅れがみられるようになる
- ・安定した対人関係が形成できない
- ・自尊心や自己評価が低くなる



非行などの問題行動、情緒的な不安定さ

AD/HDの治療

◆心理社会的治療

- ・ 環境調整（刺激を減らす、手順を提示）
- ・ 行動療法（適応的な行動を増やす心理治療）
- ・ペアレントトレーニング（対応法を学ぶ）

◆薬物療法

- ・ 脳内の神経伝達物質を調整する薬剤の使用



AD/HDの治療目標



AD/HD症状を消失させることなく、

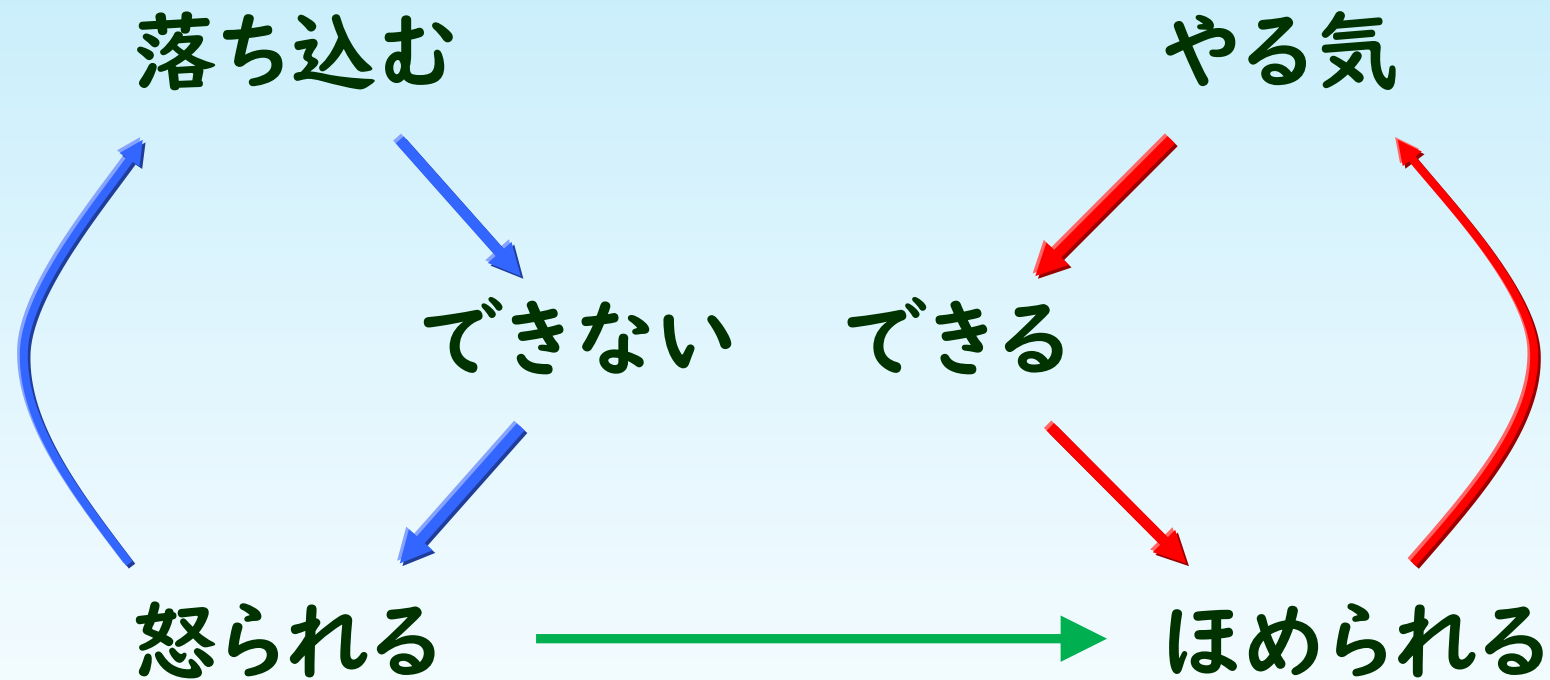
症状からの悪循環的な不適応状態を好転させ、

ADHD症状を含めた自分（「自分らしさ」）

を受け入れられるようにする



良い循環への転換を目指す





限局性學習症/
限局性學習障害

Specific Learning Disorder
(SLD)



文部科学省によるLDの定義(1999)

全般的な知能発達に遅れはないが、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」、「計算する」、「推論する」能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態

原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接的な原因となるものではない

医学と教育ではLDの定義が違う

教育の定義

- 聞く
- 話す
- 読む
- 書く
- 計算する
- 推論する

医学の定義

- 読字の障害
- 書字表出の障害
- 算数の障害

医学より教育の概念の方が広い！

読みの障害

読みとは？

- ・**読字**: 文字で書かれたものを声に出して言う

流暢性（スムーズに読むこと）

正確性（間違えずに読むこと）

- ・**読解**: 文字で書かれたものの意味内容を理解する

読みの障害

読字障害（ディスレクシア dyslexia）

- ・文字を音に変換すること（decoding）の苦手さ
- ・文字や単語を視覚的にとらえることの苦手さ

⇒ 音読が遅く、たどたどしい（逐次読み）

文字の読み間違えが多い



読みが苦手だと…

次の文章を10秒以内で書けますか？

1.

2.

3.

読めないと書けない、そして理解できない

書きの障害

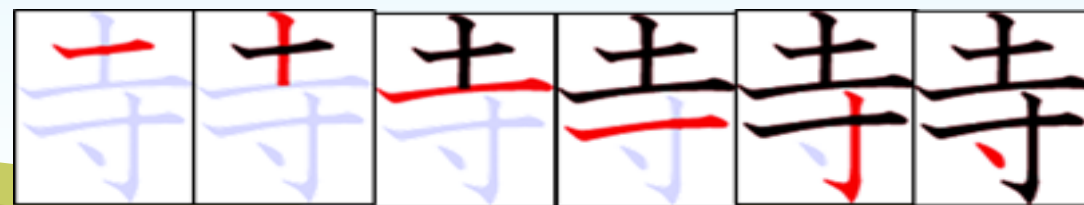
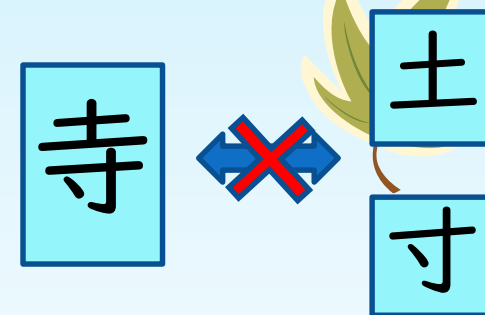
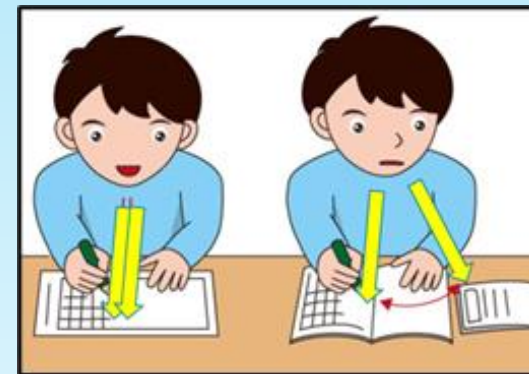
読めても書けない

- ・「ゆ」「っ」などを含む語を正確に書けない
- ・漢字が覚えられない（細部が不正確）
- ・黒板が書き写せない
- ・枠におさまるように書けない

書字障害（ディスグラフィア dysgraphia）

書字が苦手なお子さんの特徴

- ① 眼球運動の問題
- ② 視覚的な形態記憶の問題
- ③ 漢字のまとまりをとらえる能力の問題
- ④ 視覚情報を順序だてて覚える能力の問題
- ⑤ 手先の不器用さの問題



算数障害

基本的な算数能力の習得に困難が生じる

(知的能力や不適切な教育だけでは説明できない)

- ① 数処理: 数字の読み書き、大小比較、数と物の対応
- ② 数概念: いろいろな数(序数や基数など)の理解
- ③ 計算: 四則演算の暗算、筆算
- ④ 推論: 文章題の理解



算数が苦手＝算数障害？

「算数」には言語・視空間認知・継次処理・

同時処理・プランニング・注意など多くの要因が関係

⇒他の教科に比べて算数に苦手さが出やすい

知的能力に限界があると

抽象思考を必要とする内容の理解に壁があることがある

- ・不注意が原因の場合、その対処が有効なこともある

$$\begin{array}{r} 535 \\ - 46 \\ \hline 129 \end{array}$$

	5	3	5
-		4	6
	4	8	9

学習障害のお子さんへの支援の視点

治療的アプローチ

苦手な機能にアプローチする方法
反復練習、ビジョントレーニングなど
⇒本人への負荷高く、限界がある

環境改善的アプローチ

家族や学校の理解を得て、
社会的障壁をなくすアプローチ
合理的配慮（ICTの利用など）
⇒周囲の理解が必要



適応的アプローチ

得意な機能を活かしたアプローチ
継次・同時処理支援など
⇒直接的な効果が分かりやすい

心理的アプローチ

自分の価値を再認識するアプローチ
日常のサポート、個別相談
⇒自分を補うスキルを学び、
“自分はこれでいい”と思えるように



本日の内容

1. はじめに
 2. 自閉スペクトラム症 (ASD) について
 3. 注意欠如多動症 (AD/HD) について
 4. 限局性学習症 (SLD) について
 5. さいごに
- 
- 
- 

冰山モデル

「小学校で生じる問題行動」 …理由は様々

問題行動

立ち歩き

発達障害特性

授業に
興味が
ない

気が
散って
しまう

授業が
分から
ない

診断がついたら、もう治らないの？

- ◆ 診断は「レッテル貼り」ではない

子どもを理解するための材料の一つ
支援者間の共通言語にもなる

- ◆ 特性に合わせた支援でその子の本来持つ力を発揮

- ◆ 不適切な対応が続くと二次的な問題に繋がることも

- ◆ 今は支援が必要、でも先のことは分からない

もっと早く来ればよかったの？

◆ 早期診断、早期治療が大切？

発達障害は早く見つけて治すのが重要な病気とは異なる
診断は、障害特性を見つけて治すためのものではなく
その子がその子らしく発達できるようにするため

◆ 支援が必要になった今が診断の最適時期

支援が必要になった今が、対応を始めるべき時

小学生期に大切なこと

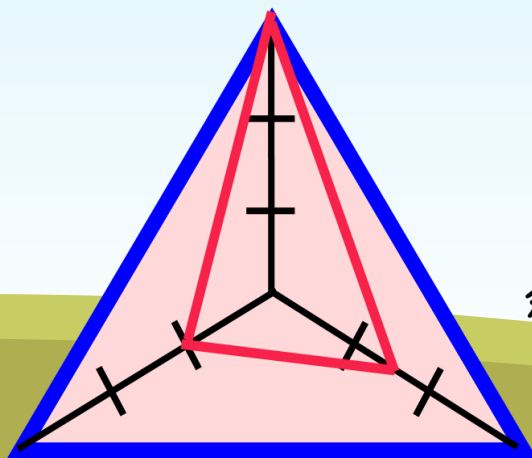
◆生活のバランスが大事！

学業重視になりすぎないように
ソーシャルスキルだけでなく
ライフスキルを意識しよう

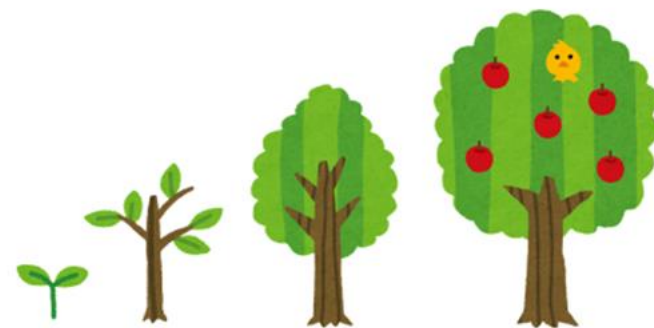
学業成績

自己管理
社会参加・
社会経験

余暇・趣味
仲間関係



発達凸凹さんの ライフスキル ガイドブック



横浜市リハビリテーション事業団
学齢前期検討会議 作成

おしまい

